

アソカ講話057

テーマ「理事長講話から学ぶ ② 許すことの大切さ」

理事長講話の学びとしてもう一つあげておきたい。それは、「許す」という行為の素晴らしさ、大切さである。

許すことがいかに大切かということ、一人の画家の一生を紹介しながらしみじみ語られた。その話を聴いて、許す人は許される、裁く人は裁かれる、相手を許すことが実は自分を許すことであり、自らに安寧をもたらすことなのだと改めて感じた。

また、孔子の言葉「恕」の意味やロータリークラブの理念「奉仕・無償のサービス(超我のサービス)と親睦」の意味を交えながら、人として一番大切なことは思いやりや博愛の心、そしてその結果として無償の奉仕があると語られた。思いやりとは人を許すことでもある。

理事長の講話聴きながら、互いに許し合うこと、互いに助け合うこと、そのことを実践するこの施設は、将来どんなに豊かで優しい施設になるだろうかと希望が膨らんだ。

どれだけ多くの人に支えられて今があるか、如何に多くの恵みを頂いて自分の命があるか、そのことに気づくと感謝の気持ちが起きる。感謝すると人を許せていない自分の傲慢さに気づく。

人を許すとは、感謝のすること、そう感じた貴重な時間であった。